科目名	空港実務ＩＢ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	河野　浩一
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	エアラインのグループ企業にて グランドハンドリング業務に従事
対象学科・学年	エアライン科（グランドハンドリングコース）1年　エアポート科(1年課程)				
授業概要	空港地上支援業務従事者としての基礎知識の習得				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					航空用語を理解し、業界人としての会話ができる
○	○				ITV・CPMを見て、到着の情報を把握し、機材等の準備ができる
○	○				LIを見て、出発情報を把握し、必要な搭載方法を判断できる
○					重量管理を理解し、搭降載作業での安全作業を説明することができる
○					BULK機材の作業を理解し、作業の手順を説明することができる

テキスト・教材 参考図書

「航空機のグランドハンドリング」日本航空技術協会出版
パワーポイントなど各プリント資料

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	前期の振り返りと貨物室（CARGO　COMPARTMENT）	
2	整備業務（Marsharlling・Towing・Wing Watch作業）①	
3	整備業務（Marsharlling・Towing・Wing Watch作業）②	
4	整備業務（Marsharlling・Towing・Wing Watch作業）③	
5	グランドハンドリングの概要（航空用語ITV）①	ITVの用語の復習を行う（0.5時間）
6	グランドハンドリングの概要（航空用語ITV）②	
7	グランドハンドリングの概要（航空用語LI＆CPM）①	LI・CPMの用語の復習を行う（0.5時間）
8	グランドハンドリングの概要（航空用語LI＆CPM）②	授業該当箇所の復習を行う（0.5時間）
9	理解度テスト	
10	Weight ＆Balance（重量）	各重量について復習を行う（0.5時間）
11	Weight ＆Balance（安定飛行）	授業該当箇所の復習を行う（0.5時間）
12	Weight ＆Balance（プランの方法・優先）	
13	搭載・取り卸し作業①	
14	搭載・取り卸し作業②	
15	理解度テスト	

評価方法

（1）授業中での口頭質問
（2）授業の中で理解度テストを実施
（3）定期試験の実施
以上を、以下の観点・割合で評価する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				70%
理解度テスト（筆記／2回）	◎	○				20%
授業中の質問	◎			○		10%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	国内航空貨物				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	鈴木　毅剛
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	空港運営会社における貨物取扱業務
対象学科・学年	エアライン科（グランドハンドリングコース）1年　エアポート科(1年課程)				
授業概要	物流における航空貨物の重要性を理解し、航空貨物業界の現場に対応出来る専門知識を習得する				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					現場業務に必要な航空専門用語の意味や内容を理解し、説明出来る
○					貨物ハンドリングの概要を理解し、説明が出来る
○					航空輸送における安全の意識や重要性を理解し、説明ができる

テキスト・教材 参考図書

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	物流について	
2	航空貨物について	
3	国内貨物について	
4	ユニットロードデバイス（ULD）の種類と機能について	
5	貨物の流れについて	
6	特殊貨物について	
7	ウェイト&バランス、航空機搭載許容重量について	
8	航空危険物について（基礎編）	
9	安全教育（航空機事故事例）	
10	安全教育（ヒューマンエラー）	
11	安全教育（KYT）	
12	物流を取り巻く環境について	
13	今後の航空業界について（ディスカッション）	
14	総合演習	
15	総合確認及びテスト対策	

評価方法

・授業内での小テスト1回実施予定

・定期試験

以上を、以下の観点・割合で評価する。成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎		○		50%
小テスト		◎		○		50%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は定期試験の受験資格を与えない

科目名	航空品質管理				
科目名(英)					
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	河野　浩一
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	エアラインのグループ企業にて、グランドハンドリング業務に従事
対象学科・学年	エアポート科(1年課程)				
授業概要	空港地上支援業務従事者として、安全運航に関する意識・感性・手法を学びイレギュラー回避能力を向上させる。				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					航空業界での「安全」の考え方を理解し、安全に関しての重要性を説明することができる
○					事故のメカニズムと要因、また事故防止の概要を理解し、説明することができるようになる
	○				危険予知トレーニングの必要性と手法を理解し、4RD分析が実施できるようになる

テキスト・教材 参考図書

「航空機のグランドハンドリング」日本航空技術協会出版
パワーポイントなど各プリント資料

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	安全管理一般①	授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)
2	安全管理一般②	授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)
3	安全管理一般③	授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)
4	機体付近の安全・高所作業の安全・消火器①	授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)
5	機体付近の安全・高所作業の安全・消火器②	授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)
6	KYT(危険予知トレーニング)①	
7	KYT(危険予知トレーニング)②	
8	授業全体の振り返り　理解度テスト	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法

(1)グループワーク
(2)授業の中で理解度テストを実施
(3)定期試験の実施
以上を、以下の観点・割合で評価する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎					70%
理解度テスト(筆記／1回)	◎	○				10%
グループワーク(2回)	○	◎		◎		20%

履修上の注意

出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	航空危険物				
科目名(英)	Transport of Dangerous Goods by Air – Initial as per the IATA Dangerous Goods Training Guidance 7.4				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川嶋　英信
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	国際航空貨物業務を35年経験
対象学科・学年	エアライン科（グランドハンドリングコース）1年　エアポート科（1年課程）　エアポート科 2年				
授業概要	この授業は、Competency-Based Training and Assessment(CBTA)のアプローチに基づき、IATAが設計した危険物教育訓練プログラムに従い実施する。対象は、危険物航空貨物の上屋内・ランプでの取り扱い、航空機での搭降載に責任を有する担当者向けである。IATAの国際資格の取得を目指す授業である。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				危険物航空貨物に関する基礎的な知識の習得
	○				危険物航空貨物搭載の事前準備
	○				航空貨物および手荷物の輸送
	○				危険物航空貨物に関係する事故や事象などの報告
			○		上記の4目標を達成し、IATA危険物教育訓練プログラム7.4の修了証明書を取得する

テキスト・教材 参考図書

オリジナル・テキストを配布する。
参考図書：航空危険物規則書第64版IATA発行JACIS邦訳2023年版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	オリエンテーション　航空貨物輸送における危険物の取り扱い	
2	危険物の基礎　危険物の適用	練習問題の解答による復習
3	危険物の基礎　危険物の制限	練習問題の解答による復習
4	危険物の基礎　荷主と運航者の役割・責任	練習問題の解答による復習
5	危険物の基礎　危険物の分類	練習問題の解答による復習
6	危険物の基礎　危険物の包装	練習問題の解答による復習
7	危険物の基礎　危険物のマーキング	練習問題の解答による復習
8	危険物の基礎　危険物のラベリング	練習問題の解答による復習
9	危険物の基礎　危険物の緊急対応	練習問題の解答による復習
10	貨物搭載前の管理　積み込み要件	練習問題の解答による復習
11	貨物搭載前の管理　隔離、分離、貨物室制限	練習問題の解答による復習
12	貨物搭載前の管理　航空機への搭載の準備	練習問題の解答による復習
13	航空貨物および手荷物の輸送	練習問題の解答による復習
14	危険物に係る事故の報告	練習問題の解答による復習
15	IATA資格取得のための試験対策	NCA Japan社e-learning受講と修了試験

評価方法

1）授業後に宿題として練習問題を課す。
2）期末定期試験を実施する。
上記の結果を次のとおり評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				50%
宿題・レポート	○	○		◎		50%

履修上の注意

出席率が規定に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	海外地理				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大岡　牧代
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアポート科(1年課程)				
授業概要	航空業界をはじめ、交通・運輸関連業界で働くうえで、海外の観光地理知識は必須である。 この授業では、どのようなものが観光資源となる得るのかを理解し、日本からの渡航者が多い国々の観光地理についての知識を習得する。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					ヨーロッパ・アメリカ・オセアニア・アジア主要国の位置としゅとが把握できている
○					上記主要国の主要都市・主要空港が把握できている
	○				世界遺産や料理、伝統行事など、観光資源になり得るものを説明することができる
○					上記主要国の観光資源を1カ国につき10以上挙げることができる
			○		各国の文化や歴史に興味を持ち、理解しようと努めることができる

テキスト・教材 参考図書

「旅行業務取扱管理者試験　標準テキスト1観光地理＜国内・海外？＞」大原出版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	観光資源とは／海外観光地理学習のポイント	興味・関心のある国に、どのような観光資源があるか調べてみること。(0．5時間)
2	世界六大州と主要国／海外旅行関連データの分析	六大州とそれぞれの主要国の位置を地図帳等で確認すること。(0．5時間)
3	ヨーロッパの観光資源①-イタリア	授業で出てきた都市・街を地図帳で確認し、配布する白地図に書き入れること。(0．5時間)
4	ヨーロッパの観光資源②-フランス	授業で出てきた都市・街を地図帳で確認し、配布する白地図に書き入れること。(0．5時間)
5	ヨーロッパの観光資源③-スペイン	授業で出てきた都市・街を地図帳で確認し、配布する白地図に書き入れること。(0．5時間)
6	ヨーロッパの観光資源④-イギリス	授業で出てきた都市・街を地図帳で確認し、配布する白地図に書き入れること。(0．5時間)
7	ヨーロッパの観光資源⑤-ドイツ	授業で出てきた都市・街を地図帳で確認し、配布する白地図に書き入れること。(0．5時間)
8	アメリカの観光資源①-北アメリカ(アメリカ合衆国)	授業で出てきた都市・街を地図帳で確認し、配布する白地図に書き入れること。(0．5時間)
9	アメリカの観光資源②-北アメリカ(カナダ・メキシコ)	授業で出てきた都市・街を地図帳で確認し、配布する白地図に書き入れること。(0．5時間)
10	アメリカの観光資源③-南アメリカ(ブラジル・ペルー)	授業で出てきた都市・街を地図帳で確認し、配布する白地図に書き入れること。(0．5時間)
11	アジアの観光資源①-東アジア(中国・台湾・韓国)	授業で出てきた都市・街を地図帳で確認し、配布する白地図に書き入れること。(0．5時間)
12	アジアの観光資源②-東南アジア(タイ・ベトナム)	授業で出てきた都市・街を地図帳で確認し、配布する白地図に書き入れること。(0．5時間)
13	アジアの観光資源③-南アジア(インド)	授業で出てきた都市・街を地図帳で確認し、配布する白地図に書き入れること。(0．5時間)
14	オセアニアの観光資源-オーストラリア	授業で出てきた都市・街を地図帳で確認し、配布する白地図に書き入れること。(0．5時間)
15	主要国の基礎データと観光資源のまとめ	授業で出てきた主要国の首都・通貨・公用語などを確認し、後期学習範囲の復習をすること。(0．5時間)

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する
(2)課題提出を1回課す
以上を、以下の観点・割合で評価する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	◎				70%
課題	◎	○		◎		30%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	第三級陸上特殊無線技士				
科目名(英)					
単位数	0単位	時間数	8時間	担当者	外部講師
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアライン科（グランドハンドリングコース）1年　エアポート科(1年課程)				
授業概要	電波法及び無線工学を学習し、電気通信の理解度を深める。合わせて第三級陸上特殊無線の国家資格を取得することを目標とする				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					電波法令の目的(用例の概要、用語の定義)の説明をすることができる
	○				無線従事者が知っておくべき内容と役割を認識し、それを説明することができる
	○				無線工学(電気の基礎、半導体、回路計算など)を理解し、応用することができる
	○				第三級陸上特殊無線技士に合格することができる

テキスト・教材 参考図書

第三級陸上特殊無線技士用(法規・無線工学)標準教科書　一般情報通信振興会

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	養成講座受講	
2	養成講座受講	
3	養成講座受講	
4	養成講座修了試験	
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法

講座を修了し、修了試験に合格した者は評価「R」とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
修了試験	○					100%

履修上の注意

出席が6時間に満たない場合は、修了試験の受験資格は与えない。

科目名	TOEIC対策ＩＣ				
科目名(英)	TOEIC Test Strategies ＩＣ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	和田　菜穂
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	外資系航空会社にて客室乗務員として勤務
対象学科・学年	エアライン科　エアポート科(1年課程)　グローバルコミュニケーション科　ホテル・リゾート科　1年				
授業概要	国際化が進む社会の専門性として、日常英会話にとどまらず、より専門的な分野で通用する高いレベルの情報処理能力を念頭に業務を行うことが求められている。限られた時間の中で正確、かつ迅速に対応し、社会で必要とされる英語力に見合った力をつけることが重要である。この授業では、英語運用能力を測る代表的な資格であるTOEIC700点以上スコア取得を目指し、問題演習を通して英語の4技能を伸ばしていく。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				社会性のある内容の文章を理解することができる。(読む) ・自分の仕事に関連した日常業務のやりかたについての説明を理解できる。 ・次回ミーティングが、いつ、どこで行われるかについての説明を理解できる。
○	○				社会性のある内容を聞いて理解することができる。(聞く) ・留守電のメッセージを聞き、相手の用件や電話番号等が聞き取れる。 ・入国管理官に、滞在場所、期間、旅の目的を英語で聞かれた時、質問が理解できる。

テキスト・教材 参考図書

TOEICテスト完全攻略リーディングVol1、2、メガ模試TOEIC、Listening Box for TOEIC、TOEIC書き込みドリル文法編650、はじめてのTOEIC模試、Vocabulary for Econimics, Management, and International Business他

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	導入、夏休み明け復習テスト	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
2	TOEIC対策 リスニング(OL)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
3	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(品詞)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
4	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(代名詞)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
5	TOEIC対策 リスニング(OL)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
6	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(比較)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
7	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(形容詞)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
8	TOEIC対策 リスニング(OL)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
9	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(副詞)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
10	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(時制)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
11	TOEIC対策 リスニング(OL)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
12	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(態、コロケーション)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
13	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(不定詞、動名詞)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
14	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(接続詞)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
15	定期試験	

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。
(2)TOEICを学期末に実施する。
評価方法は700点取得で100%、650点取得で95%、550点取得で90%とし以下も取得点数により評価に反映する。
(3)単語テストを20回実施し、評価とする。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				60%
TOEIC(IP)	◎	○				30%
単語テスト	◎	○		○		10%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	英語検定2級対策ＩＣ				
科目名(英)	EIKEN Test Strategies ＩＣ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	岡本　彩
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務（留学、シンポジウム等）
対象学科・学年	エアライン科　エアポート科(1年課程)　グローバルコミュニケーション科　ホテル・リゾート科　1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)
○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、100文字程度の英文を書くことができる。(書く)
○	○				事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)
○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)

テキスト・教材 参考図書

英検過去問題集

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	オリエンテーション、英作文、音読、ディクテーション	
2	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
3	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
4	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
5	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
6	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
7	英検ライティング、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
8	英検ライティング、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
9	英検ライティング、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
10	英検ライティング、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
11	英検模試①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
12	英検模試②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
13	英検本試験解説	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
14	試験対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
15	試験	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。
(2)小テストを実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				60%
小テスト	◎	○				40%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	英語検定準2級対策ＩＣ				
科目名(英)	EIKEN Test Strategies ＩＣ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山　久豪
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	塾講師、英語講師
対象学科・学年	エアライン科　エアポート科(1年課程)　グローバルコミュニケーション科　ホテル・リゾート科　1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定準2級合格を目指す。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)
○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、60語程度の英文を書くことができる。(書く)
○	○				電話や対面の会話などを聞いて，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえることができる。(聞く)
○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、短い文章を読んで、情報や考えなどを理解し，概要や要点をとらえることができる。(話す)

テキスト・教材 参考図書

英語検定準2級過去問

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	オリエンテーション	
2	英検対策　大問1(短文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
3	英検対策　大問1(短文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
4	英検対策　大問1(短文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
5	英検対策　大問5(ライティング)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
6	英検対策　大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
7	英検対策　大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
8	英検対策　大問5(ライティング)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
9	英検対策　大問3(長文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
10	英検対策　大問4(長文の内容一致選択)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
11	英検模擬試験	予習、復習を行って授業に臨むこと。
12	英検模擬試験	予習、復習を行って授業に臨むこと。
13	英検本試験解説	予習、復習を行って授業に臨むこと。
14	英検本試験解説	予習、復習を行って授業に臨むこと。
15	授業内正試験	予習、復習を行って授業に臨むこと。

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。
(2)小テストを実施する。
以上を下記の観点、割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				60%
小テスト	◎	○				40%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、単位を与えない。

科目名	TOEIC対策 ID				
科目名(英)	TOEIC Test Strategies ID				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	和田　菜穂
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	外資系航空会社にて客室乗務員として勤務
対象学科・学年	エアライン科　エアポート科(1年課程)　グローバルコミュニケーション科　ホテル・リゾート科 1年				
授業概要	国際化が進む社会の専門性として、日常英会話にとどまらず、より専門的な分野で通用する高いレベルの情報処理能力を念頭に業務を行うことが求められている。限られた時間の中で正確、かつ迅速に対応し、社会で必要とされる英語力に見合った力をつけることが重要である。この授業では、英語運用能力を測る代表的な資格であるAレベル・TOEIC860点以上のスコア取得を目指し、問題演習を通して英語の4技能を伸ばしていく。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				社会性のある内容の文章を理解することができる。(読む) ・International Herald Tribune」、「Financial Times」等一般的な国際英字新聞の記事を読んで、大まかに理解できる。 ・会議の議事項目(アジェンダ)を読んで理解できる。
○	○				社会性のある内容を聞いて理解することができる。(聞く) ・ラジオのニュース番組で、最初にアナウンサーが言う主なニュース項目を理解できる。 ・自分の専門分野での発表やプレゼンテーションを聞いて理解できる。
○	○				社会性のある話題について書くことができる。(書く) ・今後取引先となりそうな相手に対して、自社製品を紹介・売込みのためのEメールやレターを書くことができる。 ・FAX、E-mailでホテルの予約ができる。
○	○				英語の履歴書を作成することができる。(書く)

テキスト・教材 参考図書: TOEICテスト完全攻略リーディングVol1、2、メガ模試TOEIC、Listening Box for TOEIC、TOEIC書き込みドリル文法編650、はじめてのTOEIC模試、Vocabulary for Econimics, Management, and International Business他

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(接続詞)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
2	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(前置詞)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
3	TOEIC対策 リスニング(OL)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
4	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(関係詞)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
5	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(語法)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
6	TOEIC対策 リスニング(OL)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
7	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(語法)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
8	TOEIC対策　Part5＆Part6　文法(語法)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
9	TOEIC直前模擬試験　Q＆A	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
10	TOEIC対策　Part7実践問題	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
11	TOEIC対策　Part7実践問題	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
12	TOEIC対策 リスニング(OL)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
13	TOEIC対策　Part7実践問題(解説)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
14	TOEIC対策 リスニング(OL)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
15	TOEIC対策　Part7実践問題	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
16	TOEIC対策　Part7実践問題(解説)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
17	中間テスト(TOEIC)②	
18	TOEIC対策　Part7実践問題	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。

	19	TOEIC対策　Part7実践問題（解説）	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	20	TOEIC対策 リスニング（OL）	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	21	TOEIC対策　Part7実践問題	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	22	TOEIC対策　Part7実践問題（解説）	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	23	TOEIC直前模擬試験　Q＆A	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	24	Merry X'mas Entertainment	
	25	Cover letter ＆ Resume	USBを持参すること
	26	Cover letter ＆ Resume	USBを持参すること
	27	Cover letter ＆ Resume	USBを持参すること
	28	Cover letter ＆ Resume	USBを持参すること
	29	Cover letter ＆ Resume	USBを持参すること
	30	定期試験対策　学期総括	

評価方法

(1)定期試験（筆記）を実施する。
(2)TOEICを中間（10月）、学期末に実施する。（12月実施）
評価方法は730点取得で100%、650点取得で95%、550点取得で90%とし以下も取得点数により評価に反映する。
(3)単語テストを複数回実施し、評価とする。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				60%
TOEIC	◎	○				30%
単語テスト	◎	○		○		5%
Cover letter＆Resume提出	◎	○				5%

履修上の注意

出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	英語検定2級対策ＩＤ				
科目名(英)	EIKEN Test Test Strategies ＩＤ				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	岡本　彩
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務（留学、シンポジウム等）
対象学科・学年	エアライン科　エアポート科(1年課程)　グローバルコミュニケーション科　ホテル・リゾート科 1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)
○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、100文字程度の英文を書くことができる。(書く)
○	○				事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)
○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)

テキスト・教材 参考図書：英検過去問題集

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	オリエンテーション、英作文、音読、ディクテーション	
2	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
3	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
4	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
5	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
6	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
7	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
8	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
9	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
10	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
11	英検二次対策　スピーキング／英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
12	英検二次対策　スピーキング／英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
13	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
14	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
15	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
16	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
17	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
18	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
19	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
20	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
21	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
22	英検ライティング、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
23	英検ライティング、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
24	英検ライティング、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	25	英検模試①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	26	英検模試②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	27	英検模試解説	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	28	英検模試解説	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	29	英検模試解説	
	30	後期のまとめ	

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。
(2)小テストを実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				60%
小テスト	◎	○				40%

履修上の注意

出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	英語検定準2級対策ＩＤ				
科目名(英)	EIKEN Test Strategies ＩＤ				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中山　久豪
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	塾講師、英語講師
対象学科・学年	エアライン科　エアポート科(1年課程)　グローバルコミュニケーション科　ホテル・リゾート科 1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定準2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)
○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、60語程度の英文を書くことができる。(書く)
○	○				電話や対面の会話などを聞いて，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえることができる。(聞く)
○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、短い文章を読んで、情報や考えなどを理解し，概要や要点をとらえることができる。(話す)

テキスト・教材 参考図書：英語検定準2級過去問

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	オリエンテーション	
2	英検対策　大問1(短文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
3	英検対策　大問1(短文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
4	英検対策　大問5(ライティング)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
5	英検対策　大問1(短文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
6	英検対策　大問1(短文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
7	英検対策　大問5(ライティング)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
8	英検対策　大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
9	英検対策　大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
10	英検対策　大問5(ライティング)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
11	英検対策　大問3(長文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
12	英検対策　大問3(長文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
13	英検対策　大問5(ライティング)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
14	英検対策　大問4(長文の内容一致選択)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
15	英検対策　大問4(長文の内容一致選択)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
16	英検対策　大問5(ライティング)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。
17	TOEICテスト概要説明　TOEIC Part5	予習、復習を行って授業に臨むこと。
18	TOEIC Part5、リスニング(Part2，3，4)	予習、復習を行って授業に臨むこと。
19	TOEIC Part5、リスニング(Part2，3，4)	予習、復習を行って授業に臨むこと。
20	TOEIC Part5、リスニング(Part2，3，4)	予習、復習を行って授業に臨むこと。
21	TOEIC Part5、リスニング(Part2，3，4)	予習、復習を行って授業に臨むこと。
22	TOEIC Part5、リスニング(Part2，3，4)	予習、復習を行って授業に臨むこと。

	23	TOEIC Part5、リスニング(Part2，3，4)	予習、復習を行って授業に臨むこと。
	24	TOEIC Part5、リスニング(Part2，3，4)	予習、復習を行って授業に臨むこと。
	25	TOEIC Part5、リスニング(Part2，3，4)	予習、復習を行って授業に臨むこと。
	26	TOEIC Part5、リスニング(Part2，3，4)	予習、復習を行って授業に臨むこと。
	27	TOEIC Part5、リスニング(Part2，3，4)	予習、復習を行って授業に臨むこと。
	28	TOEIC Part5、リスニング(Part2，3，4)	予習、復習を行って授業に臨むこと。
	29	TOEIC Part5、リスニング(Part2，3，4)	予習、復習を行って授業に臨むこと。
	30	授業まとめ	予習、復習を行って授業に臨むこと。

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。
(2)小テストを実施する。
以上を下記の観点、割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				60%
小テスト	◎	○				40%

履修上の注意

出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	English Conversation Ⅰ B				
科目名(英)	English Conversation Ⅰ B				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	未定
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	Airport (One-Year Program)				
授業概要	1. Raise students' English proficiency 2. Give students more confidence in using English 3. Workplace related English skills				
授業形態	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					Raise students' English proficiency
○					Give students more confidence in using English
○					Workplace related English skills

テキスト・教材 参考図書

Speakout Elementary Book1

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	Get to know your teacher	none
2	1.1 Nice to meet you	Preview lesson materials and review previous lesson
3	1.2 Travel Light	Preview lesson materials and review previous lesson
4	1.3 Can I Have a Coffee?	Preview lesson materials and review previous lesson
5	Teacher's Lseeon or 1.4 Fawlty Towers (needs TV/DVD)	Preview lesson materials and review previous lesson
6	1.5 Lookback /teacher's lesson	Preview lesson materials and review previous lesson
7	2.1 Join Us	Preview lesson materials and review previous lesson
8	2.2 High Flyers	Preview lesson materials and review previous lesson
9	2.3 What Time Does It Start?	Preview lesson materials and review previous lesson
10	Teacher's Lesson or 2.4 Chalet Girl (needs TV / DVD)	Preview lesson materials and review previous lesson
11	2.5 Lookback / Teacher's lesson	Preview lesson materials and review previous lesson
12	3.1 Just Good Friends	Preview lesson materials and review previous lesson
13	3.2 Big Happy Families	Preview lesson materials and review previous lesson
14	Review and Practice for Speaking Test	Preview lesson materials and review previous lesson
15	Speaking Test	Review previous lesson material

評価方法

Students evaluation: (1) Test – 50% (2) Class participation – 25% (3) Attendance – 25 %
The scoring scheme is: S (90 and above); A (80~89); B (70~79); C (60~69); D (59 and below)

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験 Semester End Exam	○	○		○		50%
小テスト In-class Tasks	○	○		○		50%

履修上の注意

科目名	SPI対策ＩＤ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口／中山／合力／松藤
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアライン科 1年　エアポート科(1年課程)				
授業概要	航空業界の各企業で実施をされるテストセンターやWEBテスト、ペーパーテストの対策として、SPIの頻出テーマの応用問題に取り組んでいく。この授業では、前期に学んだ解き方を活用して、制限時間内に正解を導き出す力を養う。また、WEBテストの四則逆算問題対策として、毎回ドリルに取り組む。				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				前期に学んだ解き方を用いて、応用問題を解くことができる。
	○				計算時間を短縮する工夫を学び、目標時間内に問題を解くことができる。
	○				四則逆算の問題を制限時間内に、目標数解くことができる。

テキスト・教材 参考図書

「最新最強のSPIクリア問題集　24年度版」（成美堂出版）

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	仕事算、損益算、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
2	場合の数、確率、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
3	分割払いと割合、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
4	推論①、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
5	推論②、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
6	推論③、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
7	後期前半のまとめ	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
8	■中間テスト	
9	図表の読み取り①、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
10	図表の読み取り②、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
11	模擬試験問題①、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
12	模擬試験問題①、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
13	模擬試験問題②、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
14	模擬試験問題②、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
15	後期後半のまとめ、後期試験対策	

評価方法

（1）定期試験　（2）中間テスト　（3）出席状況
以上を、以下の観点・割合かで評価をする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎		○		80%
中間テスト		◎		○		10%
出席状況				○		10%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	SPI対策ＩＥ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口／中山／合力／松藤
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアライン科 1年　エアポート科(1年課程)				
授業概要	航空業界の各企業で実施をされるテストセンターやWEBテスト、ペーパーテストの対策として、SPIの頻出テーマの応用問題に取り組んでいく。この授業では、前期に学んだ解き方を活用して、制限時間内に正解を導き出す力を養う。また、WEBテストの四則逆算問題対策として、毎回ドリルに取り組む。				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				前期に学んだ解き方を用いて、応用問題を解くことができる。
	○				計算時間を短縮する工夫を学び、目標時間内に問題を解くことができる。
	○				四則逆算の問題を制限時間内に、目標数解くことができる。

テキスト・教材 参考図書

「最新最強のSPIクリア問題集　24年度版」（成美堂出版）

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	仕事算、損益算、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
2	場合の数、確率、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
3	分割払いと割合、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
4	推論①、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
5	推論②、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
6	推論③、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
7	後期前半のまとめ	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
8	■中間テスト	
9	図表の読み取り①、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
10	図表の読み取り②、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
11	模擬試験問題①、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
12	模擬試験問題①、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
13	模擬試験問題②、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
14	模擬試験問題②、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
15	後期後半のまとめ、後期試験対策	

評価方法

（1）定期試験　（2）中間テスト　（3）出席状況
以上を、以下の観点・割合かで評価をする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎		○		80%
中間テスト		◎		○		10%
出席状況				○		10%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	SPI対策ＩＦ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口／中山／合力／松藤
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアライン科 1年　エアポート科(1年課程)				
授業概要	航空業界の各企業で実施をされるテストセンターやWEBテスト、ペーパーテストの対策として、SPIの頻出テーマの応用問題に取り組んでいく。この授業では、前期に学んだ解き方を活用して、制限時間内に正解を導き出す力を養う。また、WEBテストの四則逆算問題対策として、毎回ドリルに取り組む。				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				前期に学んだ解き方を用いて、応用問題を解くことができる。
	○				計算時間を短縮する工夫を学び、目標時間内に問題を解くことができる。
	○				四則逆算の問題を制限時間内に、目標数解くことができる。

テキスト・教材 参考図書

「最新最強のSPIクリア問題集　24年度版」（成美堂出版）

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	仕事算、損益算、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
2	場合の数、確率、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
3	分割払いと割合、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
4	推論①、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
5	推論②、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
6	推論③、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
7	後期前半のまとめ	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
8	■中間テスト	
9	図表の読み取り①、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
10	図表の読み取り②、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
11	模擬試験問題①、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
12	模擬試験問題①、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
13	模擬試験問題②、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
14	模擬試験問題②、四則逆算	テキストの該当部分の復習（0．5時間）
15	後期後半のまとめ、後期試験対策	

評価方法

（1）定期試験　（2）中間テスト　（3）出席状況
以上を、以下の観点・割合かで評価をする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎		○		80%
中間テスト		◎		○		10%
出席状況				○		10%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	PowerPoint				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	未定
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアポート科（1年課程）　エアポート科 2年				
授業概要	パワーポイント作成の技術を身に付け、作成したパワーポイントを使いプレゼンテーションを行う。				
授業形態	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○			表・グラフの作成が出来る。
		○			図・クリップアート・ワードアートの挿入と加工ができる。
		○			アニメーションの設定・画面の切り替えができる。
		○			画像の加工とマルチメディアの活用ができる。
	△	○			作成したパワーポイントを使ってﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝができる。

テキスト・教材 参考図書

プリント

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	Power Pointの基礎知識、基本的なﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの作成	
2	新しいプレゼンテーションの作成・プレゼンテーションの流れ	
3	図やオブジェクトの挿入と編集・イラストや画像の挿入他	
4	図やオブジェクトの挿入と編集・図形、テキストボックス他	
5	図表、グラフ、表の挿入と編集	
6	特殊効果の設定・画面切り替え、アニメーション効果	
7	印刷関係の機能	
8	スライドショーをサポートする機能（課題提出）	
9	プレゼンテーション作成_発表に使える機能・データ収集	
10	オリジナルプレゼンテーション作成のためのデータ収集・作成	
11	オリジナルプレゼンテーションの作成	
12	オリジナルプレゼンテーションの作成	
13	オリジナルプレゼンテーションの作成	
14	オリジナルプレゼンテーションの発表	
15	オリジナルプレゼンテーションの発表	

評価方法

（1）授業内で与えた課題の提出　（2）プレゼンテーションと作品の提出
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題提出				◎		50%
プレゼンテーションと作品の提出				◎		50%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は単位を与えない。

科目名	キャリアデザインB				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	三笘　秀一郎
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアポート科(1年課程)				
授業概要	① 東京研修振り返り発表会において、各グループで協力し合って資料を作成し、プレゼンテーションする。 ② 就職試験に向けた必要な準備の仕方を学び、期限内に必要な行動をとることができる。 ③ 求職票を提出し、求職票受付面接に合格することができる。 ④ 就職活動のための業界・職種研究に取り組み、情報収集の仕方について学び、実践することができる。				
授業形態	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○		○		東京研修振り返り発表会にて、資料作成をし発表することができる。
			○		就職試験に向けた準備の仕方を理解し、必要な準備を期限内にすることができる。
	○		○		求職票を提出し、求職票受付面接に合格することができる。
		○	○		就職面接時の立ち居振る舞い、発言方法の基本を理解し、行動できる。

テキスト・教材 参考図書: なし

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	就職活動準備期の過ごし方/後期委員会決め	
2	就職活動斡旋規定/求職票受付面接概要/自己PR作成	求職票の書き方を復習しておくこと。(1時間)
3	求職票の書き方/業界・職種への志望動機作成	求職票の下書きをすること。(1時間)
4	1・2年生交流会	質問内容を事前に準備すること。(1時間)
5	自己PR作成/求職票の書き方	自己PRとして活用できる自身のエピソードをまとめておくこと。(1時間)
6	就職実務　ー　求職票受付面接でよく聞かれる質問集を確認	指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)
7	就職実務　ー　自己PRの作成(自己PRのメインテーマを考える)	指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)
8	就職実務　ー　自己PRの作成(テーマに合うエピソードを考える)	指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)
9	就職実務　ー　面接練習の受け方・入退室の確認	指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)
10	面接練習　ー　自己PR	指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)
11	面接練習　ー　志望動機	指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)
12	面接練習　ー　自身の強みについて	指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)
13	求職票受付面接	指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)
14	就職実務　ー　就職活動スケジュール、活動ルールの確認	
15	就職実務　ー　企業説明会の受け方、質問の仕方の確認	

評価方法

(1)求職票受付面接の合否　(2)作文を提出する　(3)就職関連の提出物を数回課す。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
提出物		○		○		40%
求職票受付面接		○		○		40%
作文				○		10%

履修上の注意

科目名	GCBⅡ				
科目名(英)	Global Citizen BasicⅡ				
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	三笘　秀一郎
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアポート科(1年課程)				
授業概要	GCBⅠでの考えを踏まえ、さらに「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢」、すなわち“志”について考える。夢を実現するためには「行動する力」が必要となるが、そのためには具体的に言語化してビジョンにし、そのビジョンに強い信念が伴い、自分以外の人や社会・公のことが視野に入ると“志”に近づくという事を学び、実践出来るようになることを目指す。				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
			○		自らの考えを積極的に発表することができる

テキスト・教材 参考図書: グローバルシティズンベーシックⅡ志の教育(学生用テキスト)

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	グローバルシティズンと“志”	振返りレポートの作成(1時間)
2	自分を取り巻く環境を知る　～世界の中の日本・日本の中の私～	振返りレポートの作成(1時間)
3	自己を知る	振返りレポートの作成(1時間)
4	伝える力を学ぶⅠ～プレゼンテーション～	振返りレポートの作成(1時間)
5	伝える力を学ぶⅡ～グループコミュニケーション～	振返りレポートの作成(1時間)
6	先人の志に学ぶ～プロフェッショナルとは～	振返りレポートの作成(1時間)
7	成功者の考え方に学ぶ～まとめにむけて～	振返りレポートの作成(1時間)
8	自らの志を言語化する(知行合一の考え方に基づく)	振返りレポートの作成(1時間)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法

(1)レポートを8回実施する
(2)最後の授業で発表する。
　評価は合格「R」か不合格「D」のいずれかとなる。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
レポート作成・発表				○		100%

履修上の注意: 出席が6回に満たない場合は、不合格となる。